

【2025 SyDE 産官学協働研修 実施報告】2025.7.7～2025.7.13

2025 年 7 月 7 日から 7 月 13 日にかけて、株式会社ジャパン・ワークスにて産官学協働研修を実施した。本研修は、SyDE プログラムが掲げる「広義のリスクマネジメントの理解と実践知の獲得」を目的とし、異分野の現場における安全管理やリスク対応の実情を学ぶことを狙いとして位置付けた。研修は平日のオンライン研修（計 30 時間）と週末の現場見学（計 10 時間）から構成され、全体で 40 時間の活動を行った。

オンライン研修では、現場で用いられるリスク管理手法や安全対策の基礎、労働安全衛生法や施工基準等の関連法規の実務的な適用方法を学習した。また、過去の重大事故や事例をレビューし、事故原因や再発防止策を整理することで、安全文化の形成の重要性を再認識した。さらに、現場資料・データ整理、簡易的な分析補助、報告資料の作成支援を通じて、現場管理の裏側を知る機会を得た。社内オンラインミーティングにも参加し、安全管理上の課題や改善事例について実務担当者の意見を直接聞くことができた。

週末の現場見学は、本研修の中でも特に貴重な経験となった。内装施工現場を実際に歩き、安全設備や作業環境を視察するとともに、作業員や管理担当者との意見交換を行った。現場は外国人労働者が多く、多言語・多文化環境におけるコミュニケーションや労務管理、安全指導の難しさを肌で感じた。また、作業時の安全確認手順、保護具の適切な使用状況、ヒューマンエラー防止策を実地で確認し、机上の知識だけでは得られない臨場感のある学びを得た。

見学後には、現場担当者や受け入れ企業の方々との懇親会も開かれ、日常の業務や現場運営の苦労、安全文化を浸透させるための工夫などについて率直な意見を伺うことができた。こうした交流は、現場の人々がどのような思いで安全管理に取り組んでいるのかを知る貴重な機会であった。

今回の研修を通じ、分野は異なっても安全管理・リスクマネジメントの基本原則には共通性があり、自身の研究分野にも応用可能であると実感した。今後は、本研修で得られた知見を活かし、より広い視点から社会基盤施設の維持管理における安全性と持続性の向上に貢献していきたい。

中里 悠人（工学研究科・土木工学専攻・D3）

建設現場における安全管理とリスク要因の実務分析

中里悠人 2025 年 7 月 12 日

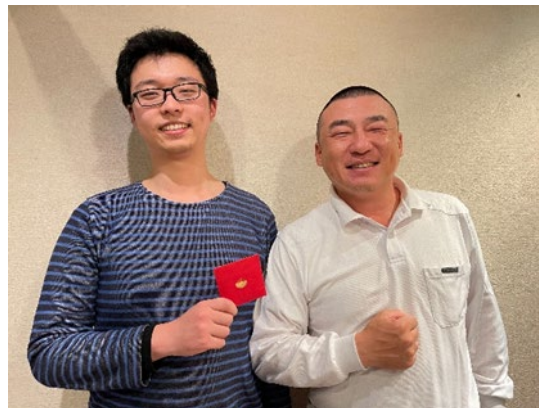
1. 研修背景と位置づけ

本研修は、産官学連携による課題解決型プロジェクトの一環として実施され、都市インフラにおけるリスク管理の実務を理解し、学術的知見と現場実務の橋渡しを行うことを目的としたものである。研修先である株式会社ジャパン・ワークスは、大規模な都市インフラ整備に関与し、安全管理や多国籍労働環境への対応において豊富な実績を有する。他の研修候補が施工管理や品質管理に重点を置く中、本研修は多国籍作業環境における安全管理の課題と解決策を深く学べる点に特徴がある。研修計画は企業との事前調整を経て、オンライン研修（30 時間）と現場見学（10 時間）を組み合わせる構成とした。

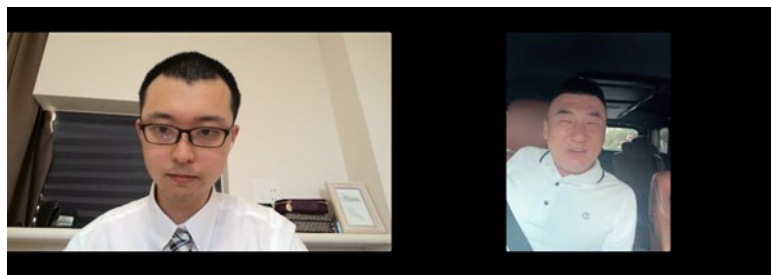
2. 建設現場の環境

建設現場における建設全体の作業内容は躯体工事、鉄骨組立、内装工事、外装工事、電気設備工事、配管工事など多岐にわたり、複数の工程が並行して進められている。特に

作成した社内レポート



懇親会で、受け入れ担当の、飯島様との写真



仙台に戻り後、受け入れ担当の飯島様との最終報告